Racing Topics

★中央競馬ニュース　文・谷川善久★

●坂井瑠星騎手がＪＲＡ通算300勝を達成

１月21日(土)の１回中京７日・第11レースとして行われた睦月Ｓではキングエルメスが１着となり、同馬に騎乗した坂井瑠星騎手(栗東・矢作芳人厩舎)は、現役54人目となるＪＲＡ通算300勝(3667戦目)を達成しました。

●亀田温心騎手がＪＲＡ通算100勝を達成

１月22日(日)の１回小倉４日・第８レースではサトノスライヴが１着となり、同馬に騎乗した亀田温心騎手(栗東・北出成人厩舎)は、現役101人目となるＪＲＡ通算100勝(2081戦目)を達成しました。

●杉山晴紀調教師がＪＲＡ通算200勝を達成

１月21日(土)の１回中京７日・第６レースではシャドウフューリーが１着となり、同馬を管理する杉山晴紀調教師(栗東)は、現役109人目となるＪＲＡ通算200勝(延べ2037頭目)を達成しました。

●佐々木竹見カップにＪＲＡから川田騎手と戸崎騎手が参加

１月31日(火)、川崎競馬場で行われる「第20回佐々木竹見カップジョッキーズグランプリ」に、川田将雅騎手(栗東・フリー)と戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)が参加することとなりました。このレースは中央・地方のリーディングジョッキーが腕を競うもので、ＪＲＡからは関東・関西それぞれの前年度勝利度数上位騎手(中央・地方・海外の合計勝利数)が招待されます。

●紫苑ＳがＧⅡ、新潟牝馬ＳがリステッドにＧ格付け

日本グレード格付管理委員会による審査の結果、紫苑ＳのＧⅡ格付申請および新潟牝馬ＳのリステッドＧ格付申請が承認されました。昇格・格付けには、パターンレースレーティング(過去３年平均)および直近の年間レースレーティングが基準値を満たしていることが条件となり、両レースともこの基準をクリアしたものです。

●ダイアトニック、リンゴアメの競走馬登録抹消

2022年阪神Ｃ(ＧⅡ)などの勝ち馬ダイアトニック(牡８歳／栗東・安田隆行厩舎／ＪＲＡ通算26戦10勝)と、2020年函館２歳Ｓ(ＧⅢ)の勝ち馬リンゴアメ(牝５歳／美浦・菊川正達厩舎／ＪＲＡ通算18戦２勝)は、１月４日(水)付で競走馬登録を抹消されました。ダイアトニックはオーストラリアで種牡馬、リンゴアメは北海道新冠町のビッグレッドファーム明和で繁殖馬となる予定です。

★地方競馬ニュース　文・宇田川淳★

●グランブリッジがTCK女王盃(大井)で３度目の重賞制覇

TCK女王盃(ＪｐｎⅢ、１月25日、大井、1800㍍)は、３番手を進んだグランブリッジ(川田将雅騎手、牝４歳、父シニスターミニスター)が、先に抜け出した２番人気のヴァレーデラルナを残り50㍍で捉え、１番人気に応えました。３番人気のプリティーチャンスが３着、途中から逃げたテリオスベルが４着、ナンヨーアイボリーが５着に入り、ＪＲＡ所属馬が上位を独占しています。

●全日本新人王争覇戦(高知)はＪＲＡの角田大河騎手が優勝

１月24日に高知で２レースのポイント制で争われた全日本新人王争覇戦は、第１戦と第２戦を連勝した角田大河騎手(栗東)が総合優勝を果たしました。小沢大仁騎手(栗東)は３、９着で第６位、今村聖奈騎手(栗東)は11、６着で第８位でした。

●ニューイヤーＣは地元ポリゴンウェイヴ【各地の主要３歳重賞】

ニューイヤーＣ(１月11日、浦和、1500㍍)は、３番手から３コーナー手前で先頭に立った単勝1.8倍で断然人気のポリゴンウェイヴ(牡、父ヘニーヒューズ)が、一旦はピノホホッアに完全に交わされながらも直線で差し返し、北海道在籍時から続いていた２着２回、３着２回という重賞惜敗に終止符を打ちました。

●テーオーケインズ対ウシュバテソーロ、２月１日の川崎記念

川崎記念(ＪｐｎⅠ、２月１日、川崎、2100㍍)は、実績最上位のテーオーケインズが中心も、東京大賞典の覇者ウシュバテソーロも差はなく、以下ペイシャエス、ニューモニュメント、ノットゥルノ、テリオスベルの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース　文・秋山響★

●Ｇ２ザビールマイル～マスターオブザシーズが制す

現地１月20日にUAE・ドバイのメイダン競馬場で行われたＧ２ザビールマイル(北半球産馬４歳上、南半球産馬３歳上、芝1600㍍)は、W.ビュイック騎手を背に内ラチ沿いを先行したマスターオブザシーズ(騸５歳、父ドバウィ、C.アップルビー厩舎)が残り250㍍付近で先頭に立つと、Ｇ２アルファヒディフォート３着から中１週での参戦となったシェリールに0.5馬身差をつけて優勝しました。マスターオブザシーズは２歳(2020年)７月のＧ２スパーラティヴＳ(芝1400㍍)で重賞初制覇。３歳春にはＧ３クレイヴンＳ(芝1600㍍)を制し、Ｇ１英2000ギニーでもポエティックフレアから短アタマ差の２着と世代トップレベルの実力を示しました。ここは１馬身1/4差で制した昨年４月のＧ３アールオブセフトンＳ(芝1800㍍)以来のレースでしたが、休み明けをものともせずに力強い走りを見せました。